出かけてみませんか ぶらりみち散策

山中湖・山中区 ぶらり 裏みち散策

山中湖の裏道を散策し地区の歴史を感じる。

1周コース距離：6.8km　所要時間　：2時間３０分

ショートカットコース距離：3.3km　所要時間　：1時間３０分

湖畔から山中諏訪神社をスタート、旧鎌倉往還から山中登山道を経由して山の神に、一の橋、諏訪の堀を湖に下り湖畔を神社に戻ります。近世の甲州と駿河をつなぐ往還の物資輸送（駄賃稼ぎ）と山仕事を生業として発達した山中区は、戦後の占領期を経て観光地化が進み通りも変化してきました。３００年以上続く、歴史的変化を内包しながら今に至る山中区、集落内を歩きます。ショートカットコースも設定し住民の健康ウォークルートにも役立っています。

旧鎌倉往還と林の中の古道

浅間神社の境内の参道下から旧道に抜ける林の中の踏み固められた小道は、旧鎌倉往還です。近くには富士山景勝地として国から指定を受けた記念碑が建っており、建物や樹木が少なかった昔はさぞ富士と裾野の眺望がよかったことでしょう。「富士山を眺める 10 日間の旅」を記した英国外交官アーネスト・サトウ一行が明治５年厳寒の山中湖を道志方面に抜けた道です。

1 山中諏訪神社

9 月 4.5.6 日に行われる「安産祭り」には多くの婦人の参詣で賑わいます。安産を願う大勢の妊婦さん達が神輿の後ろについて歩きます。終点の神社の御神木に辿り着くと、神輿と幣束、祈願者が御神歌を唱えながらグルグルと３周廻り、祭は最高潮に達します。新婚女性や妊婦、出産を無事に終えたお母さん達やその夫達が全国から集まって祭に興じる様子は熱気にあふれ、壮観です。諏訪神社参道を湖畔に抜けると湖の対岸に明神山が望めます。

2 山中浅間神社

千年以上の歴史を持つ、山中集落の氏神様です。平安時代の承平元年（西暦931）、郷民社殿を造営し、三柱の神（木花開耶姫命[コノハナノサクヤヒメノミコト]、天津彦々火瓊々杵尊[アマツヒコヒコホノニニギノミコト]、大山祇命［オオヤマズミノカミ］）を勧請して奉ったことが山中浅間神社の始まりで、村上天皇の勅命で建立されたと伝えられるものです。

3 愛宕地蔵と双体道祖神

向かって左側にある一体のお地蔵様は火伏せの神、愛宕地蔵です。江戸時代の中期に京都の愛宕山の修験者により、愛宕地蔵信仰が全国に広められたときに、この愛宕地蔵も作られたと考えられていますが、正確な建立年代は不明です。右側の男女一組の道祖神は、1760年(宝暦10年)の建立です。道祖神は村の守り神であり、子孫の繁栄をもたらす神として、また道を行き来する旅人を守る神として信仰されてきました。今は山中小学校の入り口にあって子供たちを見守ってくれています。

4 山中十一番観音堂

創建年代は不明ですが、遅くとも江戸時代中期には建てられていたと言います。古文書によると「感忍寺（かんにんじ）」とも称していたとあります。観音堂は郡内三十三番観音礼所のうちの十一番目。現在の観音堂は1982年の再建です。郡内三十三番観音礼所巡りは正徳4（1714）年、郡内の由緒ある観音を選び、礼所ごとに御詠歌をつくって巡礼することから始まりました。

5 九郎貴神社

富士山の宝永の大噴火の際、溶岩流は山中湖湖岸から300メートルのところ、現在の九郎貴神社まで流れてきました。(流れてきた溶岩の端に九郎貴神社が建てられました)。

6 山中口留番所跡

甲斐、相模、駿河を結んだかつての塩入れ道の出入りを取り締まっていた番所甲斐、相模、駿河三州の境に立って、ガッチリ構えたのが山中の関所でした。昔、東海道から分かれて須走りを回り、左手に富士山を眺めながら籠坂の峠に出たのが、甲州と駿州を結ぶ鎌倉街道です。関所はこの籠坂の麓で山中部落の中央に位置していました。

7 山中登山道と溶岩露頭

露頭とは、岩石や地層が露出している場所のことです。山中の大露頭は富士山が噴火して流れ出した大規模な溶岩流（鷹丸尾溶岩）の先端で、すぐ先には山中部落の墓地があり山中部落の人々の力でこの場所で止めたと言われています。火山災害と共生する山中集落の象徴です。

8 山神社

山中地区の富士登山道の沿道にある山の神様の祭神大山祇命（オオヤマズミノミコト）です。山仕事をしている人たちが毎年1月17日に集まって山の神講をひらき、山の神に山の安全を祈願しています。

9 集められた馬頭観音

馬の守護神として江戸時代から民間に広く信仰された石仏です。村では古くから荷駄運びや山仕事、農耕に馬が使われており、馬が生活に欠かせない大切な生き物でした。この名残として村内各所に、現在でも馬頭観音 が祀られています。

10 御旅所

山中諏訪神社では例大祭として毎年９月に山中明神安産祭が三日にわたって行われます。初日の宵祭で御霊が御旅所に向けて出発し御旅所で一泊します。二日目の本祭で御霊が諏訪神社に帰ります。

11 白竜の松（右竜）

御神歌の一節『右龍がいにも左龍がいにも』は、「諏訪の宮」のご神体である豊玉姫命が、右龍と左龍の二頭の白龍に道を導かれて、あるいは龍を従えておいでになる、と解釈されている。湖畔にたたずむこの松は、東にある明神山の奥宮から豊玉姫の命が白龍に導かれ里宮へ来る道中に位置する。誰が形成したわけでもなく、この形を成しているのは不思議である。

12 鯉奉納碑

古来より、高い山々には神が存在すると言われ、特により神に近づこうと日本一の名山「富士山」を崇拝する人々は全国各地で富士講を組織し、不二仙元大菩薩の御利益に与りたいと願い、多くの人々が富士の山頂を目指しました。「鯉奉納」の碑は現在の埼玉県寄居町を中心とする富士講のひとつ丸正講の人々が享和元年 (1801 年) 三月に山中湖を訪れ、鯉を放流した時に建てた記念碑であり富士五湖に魚を放流した記録としては最古の物とされています。また、山中湖が富士山進行に重要な役割を果たしていたことを知る貴重な資料として、平成 12 年山中湖村史跡文化財に指定されました。山中湖は富士山の清浄な伏流水の湧く湖として、往古より村人の生活に多大な恩恵を与え続けてきました。この湖に感謝の意を込め、いつまでも美しい湖を守っていくことを呼びかけるために鯉のモニュメントが建立されました。

© やまなかまちづくり